



平安だより

平安幼稚園
2022年5月

『父と母を敬いなさい。』(エフェソの信徒への手紙6章2節)

「愛する喜び、愛される喜び」

牧師・園長 江間紗綾香

教員時代、毎朝の礼拝で生徒たちに話すネタを常に探していました。新聞やテレビ番組、書籍はもちろんのこと、気になる言葉があればネット検索をしたこともありました。生徒たちの反応はさまざまですが、ある絵本について話した時に「わたしもこの絵本大好き！持っているよ」と教えてくれたクリスチャン(キリスト教信者)の生徒がいました。その絵本が、マックス・ルケード著の『たいせつなきみへ』(フォレスト ブックス)というものです。

ウィミックスという木の小人たちが住んでいる村がありました。彼らは村を見下ろせる丘に住むエリという彫刻家によって作られました。そんな彼らは朝から晩までシールをくっつけあうことをしています。そのシールは金ぴかのお星さまシールと灰色のダメ印シールです。きれいな姿形やすごい業をする小人はお星さまシールをもらっていました。しかし、不格好だったり何か失敗したりするとダメ印シールをくっつけられてしまいます。パンチネロは失敗ばかりで体がダメ印でいっぱい。いつも一人ぼっちです。ある日、パンチネロはルシアという小人に出会います。よく見ると彼女にはお星さまもダメ印も貼られていません。シールをつけようとしてもはがれてしまいます。不思議で羨ましくなったパンチネロは、ルシアに聞きます。「どうやったらシールがつかなくなるの?」すると、ルシアは「毎日、エリに会いに行くのよ」と教えてくれました。エリの家に行ったパンチネロは、「みんながどう思っているかではなく、この私がお前をどう思っているかが大切だよ。そして私はお前のことをとても大切に思っている」とエリから言われます。エリとの話を終え、家を出たパンチネロの体からは1つのダメ印シールが地面に落ちました。

小人たちを創ったエリとは、神様のことです。神様は一人ひとりを創られました。それぞれが異なる姿、能力などを持っているのは、他者と比べるためではありません。神様がそれぞれ個性ある愛すべき存在として創られたからです。エリにとってはパンチネロもルシアも、等しく愛する存在です。その絶対的な愛があることを知った時、パンチネロはその愛の中で生きる幸せと自信を得ることができました。この絵本を気に入っている生徒も、「自分がダメだなんて思う日もあるけれど、神様が抱きしめてくれているから大丈夫って思えるんだよね」と笑顔で話していたことを覚えています。子供たちにとって、絶対的な愛を与えてくれる存在は神様以外にもあります。それがお父さんやお母さんです。これらの愛のおかげで子供たちは安心して、自信を持って歩いていくことができます。これからも神様やご家族の愛の中で、子供たちの心がますます豊かに、また愛する喜びを知る人へと育つようにと祈るばかりです。